

## 映画「無言館・レクイエムから明日へ」鑑賞記

上原 昇（2組）

今年の4月末に大宮駅西口から5分ほどのところに、カフェを併設したミニシアター（50席）、「OttO」（オット）がオープンしました。

<https://otto-extended.com/>

“鉄道の街”大宮に住んで40年以上が経ちますが、これまで文化的な香りのする施設（建物）にお目にかかる機会はありませんでしたので、目新しいニュースです。

昔は小さな町でも映画館があって、映画は娯楽の中心を占めていました。

かつて、大宮市（旧）にも映画館が12軒ありましたが、現在はシネコンが2軒のみで、そのうち1軒（MOVIXさいたま）は筆者の住まいのすぐ近くです。

「OttO」のオープン時のニュースをみると「このミニシアターの誕生をきっかけに大宮が文化を発信する街に変身するか期待したい」とあります。

「OttO」はイタリア語で“8”を表す単語で縁起の良い数字のこと。

映画好きな筆者も「OttO」に一度は行ってみようと思いながら年末になってしまいました。このシアターは所謂メジャーの作品は上映しないので、よほど気になる映画でないと足を運ぶ気にならないのです。

11月末から公開されている映画は“戦後80年 内田也哉子ドキュメンタリーの旅”「戦争と対話」という6話からなる記録映画シリーズです。

その第1話のベースになるのが「無言館・レクイエムから明日へ」で、2006年、信越放送がSBCスペシャルとして制作、TV放映したもので、第2回日本放送文化大賞グランプリ受賞作です。映画案内役の内田也哉子は、内田裕也と樹木希林の娘で本木雅弘の奥さんです。也哉子さんの顔つきや喋り方がお母さんにそっくりになってきたのに驚きました。彼女は昨年、無言館創設者の窪島誠一郎氏と共同館主に就任したことで話題になりました。

12月2日の午前、家から歩いて「OttO」へ行き、上記の映画を観てきました。

<https://www.nihon-eiga.com/osusume/sensou-documentary/>

観客は筆者も含めて4人、これで商売になるのかなど、ちょっと心配に。

私も何度か「無言館」には行ったことがあります、この作品を観て、改めて戦没画学生慰靈美術館に向き合い、戦争と平和について考えることが出来ました。

このシリーズはこの後、第2話「少年たちは戦場に送られた」、第3話「再会～平壌への遠い道～」、第4話「遼太郎のひまわり」、第5話「78年目の和解」、第6話「いのちと向き合う」と続きます。出来れば6作すべて観たいと思っています。

（2025年12月2日 記）

以上